

(90×190mm Size)

FUJIFILM

Wako

コード No. 299-18841

POD 染色用
POD Immunostain Set
POD イムノステインセット
使用説明書

〔はじめに〕

近年、微量タンパク質の検出、解析等にウェスタンブロット法を用いた酵素抗体染色法が汎用されており、その標識酵素としてはペルオキシダーゼ (POD) が最もよく用いられています。しかしながらPOD染色法で基質として用いられているジアミノベンジジン (DAB) や4-クロロ-1-ナフトールは感度、色調あるいは発癌性等の問題点が指摘されております。

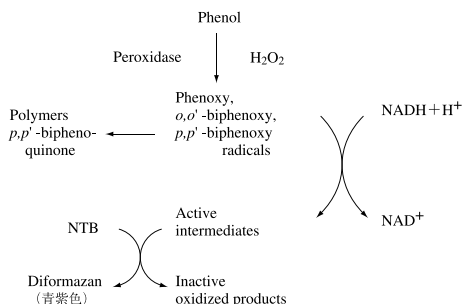
本品は、上記問題を解消したPODを標識酵素として用いる酵素抗体染色セットであり、染色に必要な全ての試薬が含まれております。また、試薬の調製が簡単で、かつ発色剤としてニトロテトラゾリウムブルー (NTB) を用いておりますので、生成する色素が不溶性となり、明瞭なスポットとして検出されます。

〔内 容〕

(1) NTB溶液 (フェノール 0.02%含有)	250 mL	1 本
(2) NADH	20 mL 用	12本
(3) 基質液 (H ₂ O ₂ 0.02%含有)	13 mL	1 本

〔染色原理〕

PODと本染色液中のフェノール及び過酸化水素との反応によりフェノールが酸化されます。その時にNADH及びNTBが共存しているとPOD活性に比例して青紫色のジホルマザンが生成されます。



〔染色液の調製方法〕

NADH (20 mL用) 1 瓶をNTB溶液 20 mLで溶解します。さらに基質液 1 mLを加え、混和後、染色液として下さい。調製後、遮光冷蔵保存で5日間は使用可能です。

〔染色操作法〕

- (1) POD標識抗体反応後の支持体を常法に従い洗浄します。
- (2) 染色液※に(1)の支持体を移し、室温で約10分間反応させます。
- (3) 反応後、水洗し、反応を止めて下さい。
尚、反応時間の10分は、標準的な時間ですので、試料により調整して下さい。
- (4) 乾燥後、遮光保存すれば長期保存が可能です。

※染色液の量は、支持体上をおおう程度で十分ですが、反応時に染色液不足がおきないように注意して下さい。

〔操作上の注意事項〕

- (1) 長時間反応させますと、バックグラウンドも着色致しますので注意して下さい。また遮光下で反応させますと、バックグラウンドの着色は低減します。
- (2) 染色用トレイに染色液を長時間入れたままにしますと、トレイに染着する場合がありますので、染色終了後はすみやかに水または、洗剤等での洗浄をお勧めします。
- (3) 免疫組織染色の場合、キシレン溶媒を使用した封入剤は、色素を溶かしますので、さけて下さい。

〔貯 法〕 2～10℃保存

〔包 装〕 20 mL 用×12回

〔参考文献〕

1. Taketa, K., Ichikawa, E. and Hanada, T. : *J. Immunol. Methods*, **95**, 71 (1986).
2. 鎌田雅史・染谷佳子・池北雅彦・青木一正・木付和幸・守屋 寛 : 生物物理化学, **33**, 279 (1989).
3. Hokari, S., Hasegawa, M., Tanaka, M., Sakagishi, Y. and Kikuchi, G. : *J. Biochem.*, **104**, 211 (1988).

製造発売元

富士フイルム 和光純薬株式会社
大阪市中央区道修町三丁目1番2号
Tel : 06-6203-3741

1801KA1